

いろ
艶
筆

佐藤弘人

新潮社版

いろ
艶
筆

いろ
艶
筆

いろ
艶
筆

いろ
艶
筆



佐 藤 弘 人

新 潮 社 版



いろ 艶 筆

¥ 160 地方売価 170 円

昭和31年11月30日 発行

昭和31年12月15日 四刷

著 者 佐 藤 弘 人

東京都新宿区矢来町71

発行者 佐 藤 亮 一

東京都新宿区矢来町71

発行所 株式 新 潮 社
会社

電話東京(34)7111〜8 振替東京808

乱丁、落丁本は本社又はお買求めの書店でお取替えいたします。

印刷・扶桑印刷株式会社 製本・新宿・加藤製本

© by H. Sato 1956, Printed in Japan

序

私の随筆はなるだけ身近かな例をとって、例えば小便とか、おならとか、食事とか、入浴風景とか……をとって、これを出来るだけ自然科学的に分析し、これだけでは泥臭くなるので、これに哲学的考察と、文学的匂いとを加味して、読んだあとの「あと味」を上品に高尚にしたのです。また時にはきわどいエロ談もありますが、そのすぐあとで神様に物をいわせ、自分でもわからないような原理原則的な理屈をならべ、また医学的な衛生学的なことを持ち出して、そのエロ談を美化し浄化してあるのです。つまり、表現形式を出来るだけ上品に立体化するように心がけたのです。

序

こういった主旨で、この「いろ艶筆」も書いてあるのですが、この前の「はだか随筆」よりは内容がやゝかたく、爆笑の部分も少ないようです。が、それでもY号聖談や、下らない話が可なりはいつておりますから、専門書ではなく、単なるつれぐの随筆であるという観点から、また一本の木が枯れているから、全山の樹木が枯れているという見解をとらずに、総合的な立場から本書を読んで頂きたいと思うのです。そうしないと、とんだ見当ちがいの批評や、お叱りを受けることになりますから……。

本書は「週刊サンケイ」に連載した十七篇と、「小説新潮」に掲載した六篇と、それから方々の新聞や雑誌にのせたものを集めたもので、そのほかにも書き下しのものが二、三篇あります。

書名については、飯田末喜氏（仙台市）や、加藤昭氏（東京都）や、その他多くの人々から色々なものを頂きましたが、中々いいものがなく、ある剽軽な学生は「サルマタの匂」とか、「バターとお臍」とかを持ってきました。まさかそんな題名はつけられず、結局、片はだ随筆、いろいろ随筆、うたた寝随筆、たわごと随筆、燃える屑籠、凡人の狂訓、浴槽妄語、いろいろ艶筆……の中から、最後のものを採用いたしました。しかし、採用したあとで、それは「毎夕新聞」の見出しにあるというので、ホモ艶筆、はだか艶筆、Y印鉛筆に変えようかと思いましたが、大山暎子さんをわずらわし、同社の了解を得て「いろ艶筆」と決めました。

参考書としては別にこれといってありませんが、侏儒の言葉（芥川竜之介）、ゲーテ格言集（高橋健二訳）、さかさま人生（内山敏訳）、匙かげん（高橋毅一郎）、世界文学事典（中島健蔵他）、ことばの事典（日置昌一）、「笑の泉」などを参考にいたしました。

なお題字や装幀については町春草さんをお願いいたしました。町さんとは「第一物産」の応接室で社長の新聞さんと秘書の岡田さんなどと一度しか逢っていませんでしたが、心よく引き受けて下され有難く思っています。

また本書は新潮社の丸山泰治さんの、たつての要求で出版するようになったので、同氏に感

謝の意を表したいのです。

なお、本文の各項目の下にある英略字は、

B……軟質艶筆で、内容の軟かいもの

HB……中質艶筆で、内容の中庸のもの

H……硬質艶筆で、内容の硬いもの

と色わけしてありますから、そのお積りで読み下されば幸甚です。

昭和三十一年初冬

東京にて

著者識るす

目次

神様との座談会	HB	二
Y表現形式	B	三
近衛公の死	H	元
鼠・蛇・猫ざんげ	HB	三四
言葉のいたずら	B	三七
秋の京に遊ぶ	HB	四二
お色け人生修業	B	四七
神艶裁判	B	五〇
カニング	HB	六四
ミクロの世界	H	六六
性のなやみ	B	七一
女のちから	B	七四

マダムと行く……………	B	七
女性心理……………	B	八五
糞尿譚……………	B	八八
立小便考……………	B	九四
浮気放談……………	B	九七
雷のおへそ……………	B	一〇四
裸で道中なるものか……………	HB	一〇
放屁論……………	B	一四
筆の余得……………	HB	二〇
生の執着……………	HB	二三
齒を直した話……………	HB	二七
知恵の限界……………	HB	二九
性の両替……………	H	一三四
近頃いろいろ……………	HB	一四〇

観映観劇……………B……………	一四三
スタンダール……………	一四三
ワリタリ……………	一四五
江利チエミ……………	一四六
恋愛をハダカにすれば……………B……………	一四八
エネルギーの輪廻……………B……………	一五四
おしどり夫婦論……………B……………	一六一
好きな女性……………B……………	一六五
後家サロ……………B……………	一六八
女優と空を翔ける……………B……………	一七三
お色け規格論……………B……………	一七六
草津よいとこ……………B……………	一八二
男のわがまま……………B……………	一八六
聖談落穂拾……………HB……………	一九三

装幀
カット
町春
関野準一
草郎

い
ろ
艶
筆

神様との座談会

HB

司会者——これから座談会を始めますが、時間の関係上、質問は簡単に願います。なお今日は色々な職業の人が参加されていますので、質問の前に、姓名と職業をおっしゃって下さい。では、どうぞ……

学生——私は小川という学生です。私は中学時代から、耳にたこが出来るほど、真理とは何か、について聞かされて来ましたが、いまだにその真意がわかりませんが……

神——学生といっても、どこの学生か。

学生——東大です。

神——道理で……東大の学生は理窟っぽいとい

う評判だぞ……ところで、真理だが、人間の世界には、真理という妙なものがあるそうだが、われわれ神々の世界にはそんなものはない。君らは個人個人の人格、個性が完成されていないから、真理が必要になり、且つ問題になるのだ。五十歳以上になって、学問、人格が完成してみろ、真理など口にしたくも、しなくなる。そのうち、わかつてくる……

学生——そんな……私は真理そのものの説明をきいているんです。

神（面倒くさそうに）——そうか……真理はね、一口にいえば、「質屋で流れる」ものと思え



ばいい。戦前は街頭でキスが禁ぜられていた。ところが、戦後はそれが許されている。盲腸は冷された時もある、暖められた時もある。昔のアシマは皮膚を引張ったり、叩いたりしたが、今日の「アシマ学」はそれをよくないという。

そういう風に、真理は絶えず時代と共に流れるもので、これを相対的真理という。昔は太陽は燃えているといったが、いつまでたっても小さくならない。そこで今日は太陽の表面で「原子核」が破壊されているという。上空で雨をつくる核心は、最近では世界の海岸から打ち上げられる、それこそ無限の塩の微粒子であるという。学説ばかりでなく、社会の道徳も法則も絶えず変化、流動している。固定的な、動かない真理は一つもない。

しかし、「水は高い所から低い所に流れる」とか、「三角形は三辺よりなる」とか……は永遠の真理ではないか、というものもあるが、それは単なる事実で、真理ではない。もし、そういうものを、

真理というなら、「人間は二本足で歩く」とか、「魚は海にすむ」とか、……が悉く真理になって、世は正に真理の過剰になる。

強いて普遍妥当的な真理をいえ、というなら、親が子を愛するとか、年頃になると男は女を恋するとか、男は浮気をするとか、……が真理にならないこともない。これらは、どの民族にも、いつの時代にも、どの場所にも妥当するもので、これを絶対的真理という。しかし、こんな真理は学校では取り扱わない。君達、学生のいう真理は多くは前者の相対的（体系的、時間的）な真理をいうのだ。ね……そうだろう……

学生——はア、そうです。神様は先きほど、神の世界には真理はない、といわれましたが、よく御存じではありませんか。

神——いや……それは先日、ある座談会で、人間からきいたのだ。今受け売りをしているのだ。とにかく、真理は「与件即真理」といわれる位、

その場所、その時代、その民族の経済機構や社会機構の与件如何によつて種々雑多に異なるもので、その異なる真理が、与件の変化と共に絶えず変化して行くので、真理も絶えず流動し、須臾も停滞しないのだ。ホッテントットの蛮人真理、インディアンの酋長真理、日本人の天皇真理、アメリカ人のピュリタン真理、ソ連人の白熊真理……は停止しているように見えるが、それはたゞ運動の制限として一時的に仮りに静止しているにすぎず、そのうち変化してくる。とにかく、「真理は質屋で流れる」ということほど、確かな真理はないのだ。わかつたかね。もつと、六かしいことをききたければ、助手のローラン神にきいてくれ。

学生——真理の流動することはわかりましたが、天皇真理とか、白熊真理とか、いうのはどういう真理なんですか。

神——天皇真理は權威にあこがれ、おもねり、とりすぎる封建的な真理だ。勿論、人間は權威が

なくては存在し得ない。しかし、權威は真理と同様に誤りを伴うもので、当然消滅すべきものを永遠に伝え、当然把握すべきものを拒否する。こうして權威は往々人類をして一步も先きへ歩かせないようにする。それではいけない。君達の崇拜しているゲートも「支配したり、服従したりしないで、それでいて何物かであり得る人だけが、ほんとうに幸福であり、偉大なのだ」といつているではないか。

とかく、日本人は強權に対する幫間性の發揮が強く、それが消極的なぬすみ笑いとなり、皮肉な芸当となつて現われているのだ。茶坊主もいいが、やけくその茶坊主はいかんよ。

それから白熊真理だが、これはオリの中で行つたり、来たりする自由の真理だ。自由も真理と同様に、相対的なもので、絶対的なものはない。すべての自由は相対的で、その中により相対的なものと、より絶対的なものがあるにすぎぬ。だから

資本主義社会の自由も、社会主義社会の自由も、何れも相対的な自由で、只異なるところは、相対的なワク、オリの取り方如何によるのだ。真のワクは個人の意志と国家の権力とを超越するところの、真のヒューマニズムに立脚する客観的な価値の体系にはかならない。しかし、……

司会者（神に向い）——簡単に願います。

神（やゝ不機嫌に）——そうか……それではもうよそう。中途半端で残念だが……

○

司会者——次ぎの質問……

婦人——私は小学校のPTAの会長をしている吉村というものです……最近「太陽の季節」が出てから、「太陽族」とか、「太陽映画」とかが問題になっておりますが、これは子弟の教育上困ると思います、如何なものでございましょう。

神——グレン隊や、イカレン坊や、不良に、太陽族という名前をつけたこと自体がよくない。わ

れわれの崇拜する太陽に、何んの断りもなくそんな名前を使用するとは実にけしからん。太陽族は「青酸カリ」みたようなものだから、「性カリ族」といえばいい。以後、「性狩り族」とあらためなさい……

婦人——かしこまりました。次ぎのPTAの総会るとき、議題にいたしましたよう。

神——いや、そうまでしなくてもいい。今日は、行きがかり上、太陽族という名前を使うが……こういういった太陽族、太陽映画は、社会が生きている以上、あらゆる社会に、必然的に出来るものだ。ミコシをねるときに、怪我人が出来、アメをねるときに^{かす}滓が出来るように、社会をねっていると、そのような「太陽もの」は必然的に出来る。上野の地下道で浮浪人が毎日、死んでいるからこそ、われわれはこのように健康な社会をつくり得ているのだ。汽罐車に潤滑油をさす、やがて滓が出来る。滓が出来なければ、汽罐車は動かないのだ。